

令和5年度第1回江別市地域公共交通活性化協議会開催結果（要旨）

日 時：令和5年6月28日（水） 14時00分～15時10分

場 所：江別市民会館3階37号室

出席者：高野伸栄副会長（会長代理）、和田則幸委員(代理)、佐藤元委員、中野幹也委員、鈴木康治委員、内藤幸樹委員、熊谷吉伸委員、山下光弘委員、藤岡徹委員、佐藤誠一委員、鈴木智枝委員、佐藤貴史委員、津田直輝委員、渡辺美恵子委員、經亀真利委員、杉浦一秀委員、島智子委員(代理)

※今武委員、高谷政伸委員、山崎啓太郎委員、遠藤雄一委員は都合により欠席

傍聴者：1名

会議概要

1 開 会

2 報告事項

(1) デマンド型交通運行事業について

○事務局から説明

資料1をご覧ください。この資料は、現在、江別市内の江北地区と豊幌地区で運行しているデマンド型交通について、令和4年までの実績を整理したもので、会員数・実利用者数・利用者数・月平均利用者数・乗合率について記載している。

江北地区については、令和4年4月からの正式運行移行に併せ、賛助会員制度を導入した結果、正会員数と合わせると、実証運行のときよりも、会員の総数としては増加となり、会費収入も前年度より上回る結果となっている。また、コロナによる移動自粛等の影響もあり、利用者数は低下していたが、令和4年度からは回復傾向にあり、利用者数も増えてきている。江北地区のデマンドは、利用者総数としては多くはないが、実利用者にとっては必要不可欠なものとして、主に70～90代の高齢女性が通院や買物に利用している。地元としても、引き続き、地域で支えて維持していきたいとの意向である。

次に、豊幌地区については、足腰が弱った高齢者が増えており、運行開始が待ち望まれていたこともあり、実証運行スタート時点から乗合率も高く、効率性がよい運行となっている。令和4年10月から正式運行に変わる際には、地元のアンケート調査の結果を元に、利用者のニーズに合わせて市街地側の乗降場所として医療機関を3か所追加したことと、病院が終わる時間に応じて遅めに利用できるよう、帰りの便についても2便増加した効果もあり、新規登録会員数も、利用者数も増加傾向にある。

資料2は、令和4年度の江北地区と豊幌地区でのデマンド運行状況の資料であり、総運行便数や、便別の利用者数、市街地側乗降場所別の利用者数について記載してい

るので確認いただきたい。

今回資料はないが、先月末より札幌圏のタクシー運賃が値上げとなっており、距離加算の区間単位が従前より短くなったため、長い距離を乗れば乗るほど運賃が上がることとなる。長距離を走るデマンド運行も、タクシー運賃も参考に積算していることから、現在、地元や運行事業者とも対応について調整している。内容が決まれば、改めて報告する。

【質疑等】

○高野副会長

ただいま、江北地区と豊幌地区で実施しているデマンド事業の状況について報告いただいた。専門委員会では、タクシー運賃の値上げについて、地元による運行事業者への委託料が豊幌で1台4,500円、利用者からは運賃700円を徴収する仕組みとなっているが、仮に、運賃700円を改定する場合には協議会案件となり、委託料4,500円を改定するのであれば、地元と運行事業者との間の委託変更の処理となるとの説明があったが、どちらにしても、今後の協議会で報告されるとのこと。

また、資料1のデマンド事業の乗合率について、1台あたりの乗車人数が増えれば収入も増えて、市の補助金負担も減ることとなり、乗合率を高めていくことが、この制度を維持していくためには重要であるので、例えば、複数人で乗れば1人で乗るよりも少し運賃を安くするなど、乗合率を高めていく方策について考えていくべきとの意見が出された。

○經亀委員

乗合率については、地元の意見を聞きながら進めていただきたい。豊幌地区のデマンド事業は好調である。色々な改善を行うことで深まっていくと思うので、今後に期待している。

3 協議事項

(1) 令和4年度協議会決算について

○事務局から説明

資料3をご覧ください。内容としては、地域公共交通計画策定のため、各種調査等を実施するにあたり、国の補助金等の活用が必要となったため、協議会として必要な予算措置を行い、執行したものである。

予算について、歳出は計画策定に係る委託費と振込手数料の合計8,481,770円が事業費となり、それを支出するため、歳入として、国からの補助金1,251,250円、残りは市負担金7,230,520円を計上した。

決算について、国からの補助金をもらうためには、支出まで含めて事業が完了していることが必要となったため、いったん市からの負担金で事業費総額を支払うことと

して、不足することがないよう、8,487,000円を歳入として受けている。歳出については、当初予定通り、8,481,770円を執行し、国へ事業完了報告をしたのち、国からの補助金1,251,250円が振り込まれたため、先に市が負担していた1,251,250円と残金5,230円を合わせた1,256,480円を江別市負担金の不要額として返却した。以上が決算概要となる。

なお、協議会の規定より、協議会の会計については、国や江別市から補助金や負担金を受けて実施する事業がある場合に、必要な経費を措置することとしており、令和5年度については、そうした事業の予定がないことから、新年度の予算案はない。

この後、監査委員の鈴木委員から、5月11日に実施した監査結果について報告いただく。

○鈴木（智枝）委員

令和5年5月11日に、出納関係について監査を実施した結果、会計帳簿等に異常は認められず、適切に処理されていることを確認した。

【質疑等】

○高野副会長

ただいま、令和4年度の協議会決算について説明いただいた。専門委員会では、バス事業者への国の補助金について、令和7年度分から協議会を通過することとなり、委託等がなくても、協議会として予算・決算が必要となるが、今年度については予算なしとの説明であった。

（質疑なし）

(2) 江別市地域内フィーダー系統確保維持計画の認定について

○事務局から説明

資料4をご覧ください。平成30年10月から、北海道中央バス株式会社様が運行している「野幌見晴台線」については、国の補助制度が活用できる路線であることから、補助要件の1つとなる当該計画について、毎年度当協議会において作成している。この補助金の事業年度は、10月からスタートして翌年度の9月までとなっていることから、事業年度としては令和6年度となる令和5年10月以降の部分について、改めて今回計画を作成するものである。

根幹となる目的や必要性などの部分については、資料に記載のとおりであり、従前からの変更もない。定量的な目標・効果の「事業の目標」については、現在策定中の江別市地域公共交通計画の目標と整合性を図り、野幌見晴台線に係る部分を抜粋して目標値としている。これ以降の項目、運行便の詳細、ダイヤ、運行系統図などは資料に記載のとおり。

【質疑等】

○高野副会長

ただいま、地域内フィーダー系統の補助申請に係る説明をいただいた。専門委員会では、特に質問等はなかった。

(質疑なし)

(3) 次期公共交通計画について

○事務局から説明

資料5をご覧ください。現在、次期公共交通計画の策定に向けて、当協議会において内容を協議・検討いただいております。3月に開催した前回協議会では江別市地域公共交通計画(案)の取りまとめをさせていただきました。この計画案に基づき、4月19日から5月19日までの期間、パブリックコメントを実施し、結果として6人の方から10件のご意見をいただきました。

(資料5に基づき概要を説明)

これらに対する市の考え方について、大部分は次期公共交通計画(案)の方向性と趣旨が同じか、あるいは施策を検討していく際の参考にできるものと考えています。意見の反映状況の区分としては、Bの「案と意見の趣旨が同様と考えられるもの」、Cの「案の変更はないが、今後の参考等とするもの」に該当すると考えます。

結果として、3月末に協議会で承認いただいた計画案から大きな変更はないが、パブリックコメント実施前に計画案を若干修正しており、資料6の93ページ「現状・問題点」の一番下段に「タクシーの運転士不足」を追記している。

【質疑等】

○高野副会長

ただいま、パブリックコメントで出された意見の反映状況として、B「趣旨が同様」とするものが2件、C「今後の参考」とするものが8件との説明をいただきました。専門委員会では、資料6の95ページにある表の色合い・濃さを他のページと揃えることと、出典の表記について意見があり、本日は修正済みとなっている。

また、高齢者等の移動支援について意見が出されたが、計画の中でも今後検討することとしているとの説明があった。また、地域の路線等への様々なニーズや要望について、計画の基本方針1「利便性・効率性の向上」の中で検討していくとの説明があった。また、JRバスさんの「おでかけパス」について、あまり知られていないのでPRした方が良いとの意見も出た。

高齢者への運賃補助について委員から意見が出ていたが、その後、市で動きなどあるか。

○事務局

所管する部署において、高齢者に対する交通費助成等については、高齢者福祉の総合施策の中で、優先順位を考慮しながら総合的に検討していくとの方向性のため、当計画においても、方向性を合わせる形で協議・検討していきたい。

○経亀委員

パブリックコメントにもあるとおり路線見直しへの要望は非常に高いと感じる。このような協議会の場が声を吸収する場であると思うので、必ずしも意見が全部通るわけではないが、出てきた声について色々検討いただけたらと思う。

江別市の場合は町が大きく、大麻地区・野幌地区・江別地区で、それぞれ課題も変わってくる。以前、この協議会で、住んでいるエリアについての状況は大体わかるが、それを結合していくと大変との話があったが、その検討を進めるのが協議会の場だと思っている。あくまで計画は指針なので、これを活用してどんどん進めていくのが協議会の場だと思っている。計画を策定しておしまいでなく、継続して活動を進めていただけたらと思う。

○高野副会長

色々な意見や要望を、この協議会の中に集めてくることも重要だと思う。地域の声や各委員の日頃から感じていることなどを出していただき、改善に結びつけていけると良い。

○事務局

計画策定にあたり、昨年度に実施した各種調査や、まちづくり会議などを通じて、個々の色々なニーズやご意見をいただき、それらを踏まえながら方向性を抽出して計画を策定した。今後は、これを土台にして、こちらの各種専門の方々出席される協議会の場で、様々な知識やノウハウ等もあるかと思うので、そのような一つ一つの課題等を議論できたらと思う。

○高野副会長

事業者の方にも利用者から直接要望や意見が行くと思うので、そのようなことも協議会へ情報提供いただくと良いかと思う。

計画ができれば、市民や委員にはどのように周知等されるか。

○事務局

計画については、協議会で承認いただけましたら、製本のうえ協議会委員、市の関係部署、議員等に配布するほか、市ホームページ等にも掲載して周知を図る。

○高野副会長

江別市地域公共交通計画（案）について、本協議会で承認いただくことでよろしい。

（異議なし）

それでは、承認させていただく。

4 その他

○高野副会長

各委員から何があれば発言願う。

○経亀委員（情報提供）

※「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律等の一部を改正する法律」について説明、「自動運転バス実証実験（当別町）」について紹介。

○内藤委員（情報提供）

※ＪＲ北海道「みどりの窓口」営業時間の変更について説明（令和５年７月１０日から江別駅・野幌駅・大麻駅の営業時間が７：００～１８：００に変更）

○事務局（情報提供）

※実証運行中のＦビレッジ線について、交通系ＩＣカード決済が導入される予定（７下旬頃からの予定）

※次回協議会の開催について、１１月の委員改選に合わせて開催予定だが、それまでに案件等があればご案内させていただく。

○佐藤（貴）委員

今後、施策を進めていくにあたり、市民への情報提供として、ホームページを使ったＰＲなども大事になると思う。市のホームページは、パソコン上は問題ないが、スマホになると、公共交通の部分が下の方になり、江別市の政策項目の中に埋もれてしまう。また、公共交通のページでも、最初に出てくるのが活性化協議会の関係となっている。市民が知りたいのは、バス路線やバスの乗り方だと思うので、可能であれば、スマホ版の方で、新たな入口を作るか、順番を変えるなど工夫してほしい。

○経亀委員

公共交通計画について、ボリュームが大きいので、概要版を作成すると市民の方も見やすいと思う。

○事務局

わかりやすく情報周知等できるよう検討する。

○高野副会長

ヤフーやナビタイムなど便利なサイトもあるが、市で紹介するのは難しいか。

○事務局

公共交通担当のページに外部リンクを貼れるかなど考えてみたい。

○鈴木委員

主婦として、一市民として、市内でバスが走る環境を守りたいと思っている。子供たちは働く車が好きで、バスを見ると手を振っている。このバスが走っている環境を守るため、どのように乗る人を増やすか、例えば、自治会で出かける時にバスを利用できないかなど考えている。中央バスさん・ＪＲバスさん、夕鉄バスさんが、ご苦労の中で、冬場も停留所の除雪や運休のお知らせを貼って回る姿を市民は目にしてい

る。地域住民が支えるような取り組みについて、みんなでアイデアを出し合いながら進めていけたらと思う。市民を巻き込めるような取り組みを、この協議会で進めていけたら、色々な方の理解も得られると思う。バス事業者の皆様には本当にありがたく思っている。

○高野副会長

他に各委員から質問等はないか。

(質疑なし)

5 閉 会